

第2学年 社会科学習指導案

2年3組 男子21名 女子19名 計40名
指導者 龍瀧 治宏
【授業】 13:30~14:20

主体性の高まりをめざす課題学習 一見方・考え方を働かせて、深い学びを実現する授業づくり（1年次）

1 研究主題について

本校の研究主題は「主体性の高まりをめざす課題学習」であり、生徒が主体的に課題を解決していく学習の在り方について長年研究を重ね追究してきた。研究副題にある「深い学び」について、その実現に向けた授業改善のポイントとして中学校学習指導要領解説（平成29年告示）では、「生徒が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習の充実を図ること」（p77）、「習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた『見方・考え方』を働かせながら、①知識を相互に関連付けてより深く理解したり、②情報を精査して考えを形成したり、③問題を見いだして解決策を考えたり、④思いや考えを基に創造したりすることに向かう『深い学び』が実現できているか（p78、番号筆者）」が大切であると述べられている。

一方、田村（2018）は、「深い学び」について、「『深い学び』については、これまで以上に学びのプロセスを意識することが求められる。1 問題を解決するプロセス 2 解釈し考えを形成するプロセス

3 構想し創造するプロセスなど、教科固有のプロセスが一層充実するようにしたい。なぜなら、学習のプロセスにおいて、それまで学んだことや各教科等で身に付けた知識や技能を**活用・発揮する**場面が頻繁に生み出されるものとして期待できるからである。『深い学び』の実現のためには、身に付けた知識や技能を活用したり、発揮したりして関連付けることが大切になる」（p23）と、述べている。さらに、田村氏は「深い学び」を知識中心に捉え直している。『深い学び』とは、生徒が「習得・活用・探究を視野に入れた各教科等固有の学習過程（プロセス）の中で、それまで身に付けていた知識や技能を活用・発揮し、その結果、知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、構造化したり身体化したりしていくこと」している。

また、澤井（2019）は、『深い学び』は、中央教育審議会が提起し、学習指導要領「総則」に盛り込まれた概念ですが、どの教科等においても重視。つまり、各教科等の目標の記述には、この「深い学び」の姿が必ず意識されている。また、『深い学び』とは、目標を実現すること」とも述べている。

私たちは、昨年度までの5年間、研究副題「教科の本質に迫る授業づくり」の下、研究をしてきた。この研究において、教科の本質とは、各教科の目標を実現していき、各教科固有の資質・能力を育成することであるということが明確になった。また、資質・能力を育成する過程で、既習事項の知識・技能を活用・発揮・実感させることが重要であることも解明された。以上のことを踏まえ、本校では「深い学び」を次のように定義した。

「深い学び」とは、「これまでに学習した複数の知識・技能を活用・発揮して課題解決に臨むことで、知識や技能が相互に関連付けられたり組み合わせられたりして、構造化することで得られる学びである。そして、それは、教科の本質である「教科の目標に迫る学び」である。

「深い学びを」分かりやすくするために、知識・技能をどちらも知識と捉え、知識中心に捉え直すと、様々なタイプに構造化できるが、本授業では、図1の「宣言的な知識がつながるタイプ」の深い学びに取り組んでいきたい。

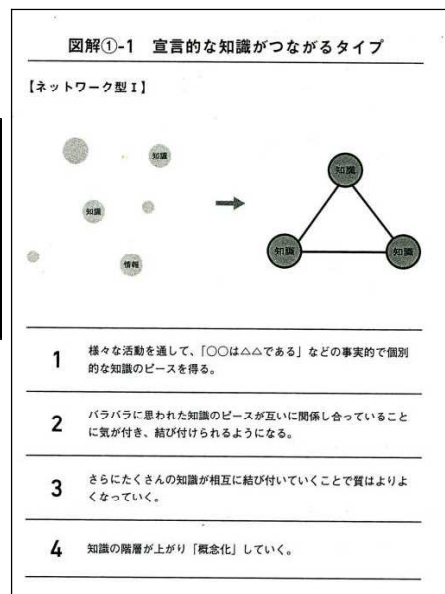


図1 ネットワーク型I

2 新学習指導要領【平成29年度版】における「社会的な見方・考え方」について

中学校社会科における「社会的な見方・考え方」は、各分野の特質に応じて整理され、図2のような構成になっている。小学校で「社会的事象の見方・考え方」から、地理的分野の「社会的事象の地理的な見方・考え方」、歴史的分野の「社会的事象の歴史的な見方・考え方」、公民的分野の「現代社会の見方・考え方」にそれぞれ成長していくものとして考えられていることがわかる。

本校社会科では、「社会的な見方・考え方」のうち、「地理的な見方・考え方」を、表1のようにまとめた。また、社会認識・市民的資質の構造と「地理的な見方・考え方」との関係を図3のように捉え直している。

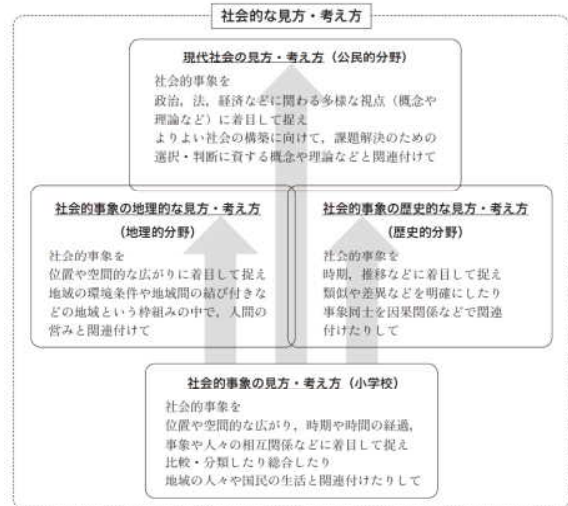


図2 社会的な見方・考え方
平成29年版小学校学習指導要領解説社会編
資料「社会的な見方・考え方」p19より

表1 地理的な見方・考え方

	「見方・考え方」	「見方・考え方」を働かせる「問い」の例
見方	位置や空間(絶対的、相対的) (規則性・傾向性、地域差など)	・それはどこに位置するか? ・それはどのように分布しているか?
	場所(自然的、社会的など)	・そこはどのような場所だろうか?
考え 方 1	人間と自然の相互依存関係 (環境依存性、伝統的、改変、保全など)	・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているか? ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているか?
	空間的相互依存作用 (関係性、相互性など)	・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているか?
	地域(一般的共通性、地方的特殊性)	・その地域は、どのような特徴があるだろうか?
考 え 方 2	課題解決	どのような課題があり、どうしたらよいか?
	価値判断	どちらがよいのでしょうか?
	意思決定	どうすべきでしょうか?

吉田(2017)を参考に作成

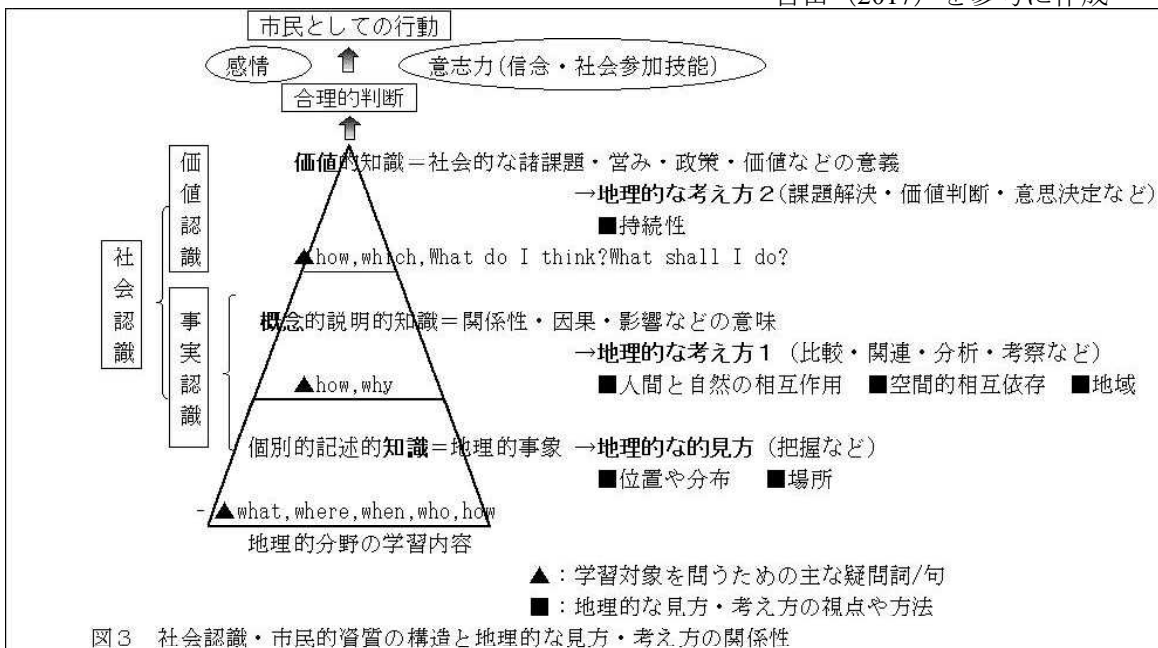


図3 社会認識・市民的資質の構造と地理的な見方・考え方の関係性

岡崎(2013)より作成

3 単元名 世界と比べた日本の地域的特色 ―地域間の結びつきの特色―

4 単元について

(1) 教材観

この単元は、平成29年告示中学校学習指導要領の地理的分野C「日本の様々な地域」における(2)「日本の地域的特色と地域区分」にあたり、「① 自然環境」、「② 人口」、「③ 資源・エネルギーと産業」、「④ 交通・通信」の四つの小項目で構成されている。ここでは、分布や地域などに関わる視点に着目して、我が国の国土の地域区分や区分された地域の地域的特色を多面的・多角的に考察し、表現する力を育成することを主なねらいとしている。そうした学習の全体を通して、我が国の国土の地域的特色を理解できるようにすることが求められている。そこで、本授業では、①～④の小項目を、「④ 交通・通信」を中心にして、他の三つを関連付けることによって、日本の地域的特色を多面的・多角的に考察していくことを試みたい。

まず「④ 交通・通信」について、現代社会は、空や海の交通網の発達により国境を越えた人や物の移動が活発になっている。島国である日本では、資源を輸入したり、機械類を輸出したりする場合は、大量に安く輸送できる海上輸送が利用されている。一方、軽量で価格の高い電子部品や野菜や生花などは、航空輸送が利用されている。また、日本と世界各地の人の移動は、主に航空輸送が利用され、輸送手段は使い分けられている。日本国内の交通網は、高度経済成長期以降、新幹線や高速道路の建設、空港の整備などが進み、現在では日本各地が高速交通網で結ばれている。

以下、「④ 交通・通信」と他の項目の関連付けについて述べる。

・「④ 交通・通信」と「① 自然環境」の関連付け

太平洋側に比べて、日本海側における新幹線の整備が遅れていた。しかし、日本は様々な自然災害が多く、特に近い将来に南海トラフ地震の発生が予想されているので、減災のために日本海側への交通網の整備の充実が必要になってくる。

「④ 交通・通信」と「③ 資源・エネルギーと産業」の関連付け

高速道路が全国に整備されたことや冷蔵輸送が発達したことにより、大都市からはなれた地域でも短時間で輸送ができるようになったので、出荷時期に合わせて作物の生育を調節する促成栽培や抑制栽培を盛んに行えるようになった。また、高速道路のインターチェンジ付近や空港付近に、工業団地が造成されたことで内陸部に輸送機械工業や電気機械工業などの組み立て型工業の新しい工業地域が形成されるようになった。さらに、高速道路のインターチェンジ付近や郊外には、大型商業施設が進出するようになった。そのような場所では、就業場所ができたことで人口が増加している地域が多く見られる。

「④ 交通・通信」と「② 人口」の関連付け

日本の都市の人口の推移を表した別添の資料1を見ると、1878（明治11）年では、北陸地方の金沢市が5位、富山市が9位、福井市が15位であった。しかし、1985（昭和60）年では、金沢が31位、富山が55位、福井が80位と大きく後退していることが分かる。しかし、隣県の新潟は維持している。この社会的事象の大きな要因は、新幹線の未整備によるものである。計量経済学的な分析に基づくと、新幹線の整備というのが人口分布に大きく影響をもたらすことが明らかにされている。新幹線が整備されている都市が成長する一方で、新幹線が未整備の都市は、かつてどれだけ栄えていても、衰退していかざるを得なかった。この社会的現象は、近畿地方でも中国・四国地方でも見られる。現在20ある政令指定都市に、かつて10位以内であった富山も金沢も入っていないのは、長い間、新幹線が整備されていなかったからと言われている。したがって、新幹線ネットワークが築かれる前は全国各地の街々がそれぞれ栄えていた。しかし、新幹線ネットワークが築かれると沿線の都市だけが発展し、それ以外の都市との格差が開いていった。その結果、新幹線ネットワーク周辺に大都市が集まるようになった。新幹線ネットワークは、多大な影響を与える交通インフラである。

一方、「④ 交通・通信」を歴史的現象から見ていくと、交通網の整備・発達は現代社会だけの動きではない。例えば近世において江戸幕府も交通の整備を固めている。陸上交通では、五街道の整備により沿道の宿場町や門前町が発展した。水上交通では、西回り航路や東回り航路などの海運の発達により、江戸をはじめ寄港地がにぎわった。このように、交通の発達は産業を発展させ、城下町など各都市の成長を促した。そして、明治時代以降、日本の産業革命を進展させてきた。これらのことから、産業の発展は、交通・通信の発展に支えられており整備が欠かせないことが歴史的現象からも分かる。この交通・通信の視点を働かせることは、地理的事象はもちろんのこと、歴史的現象を含めた社会的現象の動きを捉えていくには欠かせないものである。

これまでこの単元の多くの授業では、「① 自然環境」、「② 人口」、「③ 資源・エネルギーと

産業」、「④ 交通・通信」について、それぞれの内容に取り組んできている。本授業では、「地理的な見方」を働かせて学習対象の「位置や分布」、「場所」を把握し、「地理的な考え方」である「空間的相互依存」を働かせて、既習事項である自然環境、産業、人口の特色に交通網を関連付けることで、既習事項が結びつき多面的・多角的に解釈した「深い学び」につながると言える。このように、単元の学習内容を再構成し、新学習指導要領で示された「社会的な見方・考え方」を働かせて、多面的・多角的に解釈し深い学びを実現しようとする本地理授業の提案に意義があると考えられる。

(2) 生徒の実態

生徒はこれまでに、歴史的分野で「なぜ、ローマ帝国は大河川がないのに栄えることができたのか」、「なぜ、百舌鳥古墳群は、その場所に造られたのか」、「なぜ、桓武天皇は都を奈良から京都に移したのか」、「なぜ、秀吉は石山本願寺跡地に大阪城を建てたのか」という課題で、「歴史的な見方・考え方」はもちろんのこと「地理的な見方・考え方」も働かせて、様々な地形的な資料を読み取り、それを根拠にして多面的・多角的に解釈した。地理的分野では「なぜ北海道地方は、農業も観光も盛んなのだろうか」、「なぜ自然災害を最小限におさえることができたのか」という課題で、「地理的な見方・考え方」はもちろんのこと「歴史的な見方・考え方」も働かせて、様々な歴史的な事象を関連付けて、課題を解決し、多面的・多角的に解釈し、両分野において深い学びが少しずつ実現してきている。

しかし、その「見方・考え方」には、多くの視点や方法があり、これまでの授業において働かせていない視点や方法がある。生徒が、「見方・考え方」を働かせ、生涯に渡って学び続けられるような資質・能力の育成には、まだ不十分である。

そこで、地理的分野の本単元において、「地理的な考え方」である「空間的相互依存」の方法を働かせることで、多面的・多角的に解釈し、深い学びを実現させ、生徒の資質・能力の育成を図りたいと考える。

5 見方・考え方を働かせて、深い学びを実現する授業づくり

(1) これまでの中学校学習指導要領における「社会的な見方・考え方」について

社会科の目標である「公民としての資質・能力の基礎」を育成することにつながる「社会認識」を形成するために重要になってくるものが、「社会的な見方・考え方」である。では、これまでの中学校学習指導要領で「社会的な見方・考え方」はどのように登場し、その位置づけはどのような内容で、どのように変遷してきているのかを分野別に確認していきたい。

〔公民的分野〕

【昭和52年度版】

3 内容の取扱い (1) ーイ

生徒が内容の基本的な意味を理解できるように配慮して、専門用語を乱用したり細かな事柄や程度の高い事項の学習に深入りしたりすることを避け、身近で具体的な事柄を通して、政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるようにすること。

【平成元年度版】

昭和 52 年度版と同様

【平成10年度版】

3 内容の取扱い (1) ーイ

日常の社会生活と関連付けながら具体的事例を通して政治や経済などについての見方や考え方の基礎が養えるようにすること。

【平成20年度版】

2 内容の取扱い (1) ーイ

人間は本来社会的存在であることに着目させ、社会生活における物事の決定の仕方、きまりの意義について考えさせ、現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、対立と合意、効率と公正などについて理解させる。

公民的分野では、昭和 52 年度版に登場以来、平成 10 年度版まで「内容の取り扱い」に記述されている。平成 20 年度版から、「現代社会をとらえる見方や考え方」として詳述され、内容に位置づけられた。

〔歴史的分野〕

【昭和30年度版】

日本の神話や伝承などの内容を通して、古代日本人のもっていた信仰や、物の見方や考え方について考えるとともに、外国のそれらの一端にもふれて、その相違や共通点に気づかせる。

【昭和33年度版】

古典に見える神話や伝承などについても正しく取り扱い、当時の人々の信仰やものの見方などに触れさせることが望ましい。

【昭和44年度版】

神話や伝承も取り上げそれらが、記紀を中心に集大成され記録されたことを説明しながら、当時の人々の信仰やものの見方などに触れさせることが必要である。

【昭和52年度版】

神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに触れさせることが必要である。

【平成元年度版】

神話・伝承などの学習を通して当時の人々の信仰やものの見方などに着目させるよう留意する。

【平成10年・平成20年度版】

神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせるよう留意すること。

歴史的分野では、「神話・伝承などの学習を通して当時の人々の信仰やものの見方」が、昭和30年度版以降、継続して記述されているが、歴史についての見方や考え方に関する記述は、いずれの時期にも見られない。このように、歴史的分野には、見方や考え方はなかった。

次に地理的分野についてみていきたい。昭和22年版から昭和33年版までの流れをまとめたものが表2である。地理的分野において、昭和30年度版「地理的な考え方」が登場し、昭和42年度版の「地理的な見方や考え方」へと引き継がれている。表3は、昭和44年版から40年間に学習指導要領での「地理的な見方や考え方」の位置づけがどう変化してきたかをまとめたものである。

以上、学習指導要領の「地理的な見方や考え方」の内容構成の変遷を図4のようにまとめることができる。

表2 学習指導要領における「地理的な見方や考え方」の位置づけとその変化①

	昭和22年版	昭和26年版	平成30年版	平成33年版
学習指導要領の関連事項	—	—	—	内容に「地理的なものの見方や考え方」で初出
指導書・解説の関連事項	—	—	解説部に「地理的な考え方」の記述	解説部に「地理的なものの見方や考え方」で初出

表3 学習指導要領における「地理的な見方や考え方」の位置づけとその変化②

	昭和42年版	昭和52年版	平成元年版	平成10年版	平成20年版	平成29年版
学習指導要領の関連事項	「目標」に初出	→	→	「内容」でも規定	→	→
指導書・解説の関連事項	—	6項目の要約	7項目に増加	5項目に整理	→	→

戸井田克己編『新しい地理授業のすすめ方』古今書院(1999)を参考に筆者作成

注：「—」は該当事項なし、「→」事項の発展的継承を表す

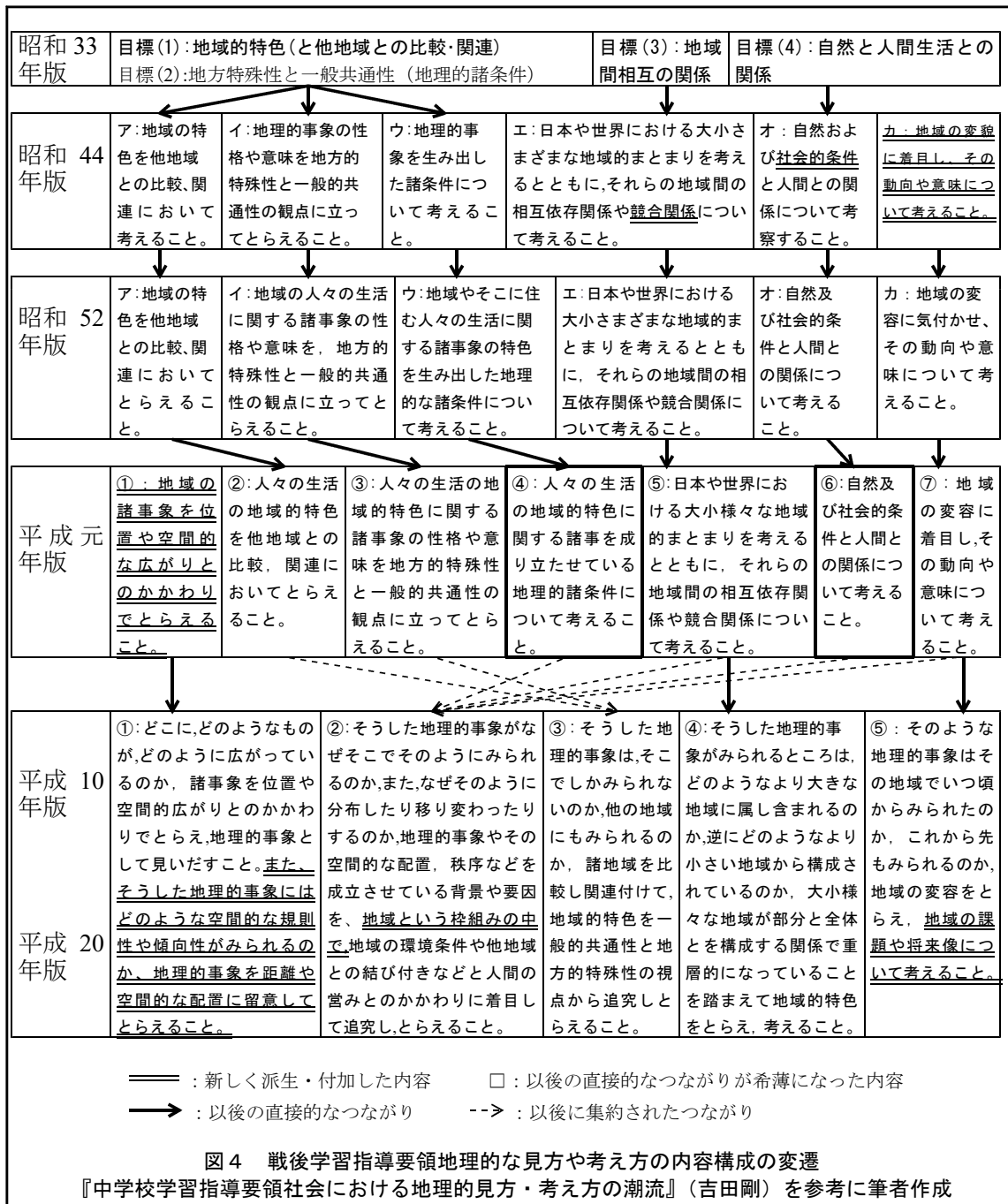


図4 戦後学習指導要領地理的な見方や考え方の内容構成の変遷
『中学校学習指導要領社会における地理の見方・考え方の潮流』(吉田剛)を参考に筆者作成

平成10、20年版で、目標(2)(3)の内容の5項目の地理的な見方や考え方の内容項目のうち、①、②には、疑問詞が付け加わり、③④⑤も含めて地理的事象の捉え方や探究の仕方が一層明示された。特に平成20年版では、⑤「～地域の課題や将来像について考えること」も指示され、どうすべきかという問いにより、社会科の公民的資質の育成につながる価値判断や意思決定が求められることに注目したい。

(2) 新学習指導要領【平成29年度版】における「地理的な見方・考え方」について

平成29年版では、先に示したように五つの用語を視点として例示しているが、それらは、国際地理学連合地理教育委員会によって地理教育振興のためのガイドラインとして制定された地理教育国際憲章(1992)において、地理学研究の中心的概念として示されたことによる。また、このような社会的事象の地理的な見方・考え方や「視点」と「問い」との関わりについては、これまでの学習指導要領で述べられてきているが、社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせた具体的な授業の中で、主要な問いとしても用いられるものであるとしている。

(3) 「見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現する授業づくり

1) 視点① 「深い学び」が実現している状態を可視化する。

図5より、本授業であつかう単元構成において、「① 自然環境」、「② 人口」、「③ 資源・エネルギーと産業」、「④ 交通・通信」の四つの小項目をそれぞれ学習し、世界と比べた日本の地域的特色を理解してきた。しかし、これまでは、日本の地域的特色は把握できるが、それぞれの学習内容を関連付けることはなかった。そこで、本授業では、交通網の整備・発達の知識を中心にして、地理的な考え方1を働かせて既習事項の人口や産業の知識と関連付ける。その関連付けにより日本の地域的特色を理解するだけでなく、交通インフラが様々な成長に影響を及ぼしていることを理解することができ、深い学びが実現すると考える。さらに、交通インフラの現状の課題を把握し、地理的な考え方2（持続性）を働かせて、その課題を解決する方法を考察させていきたい。

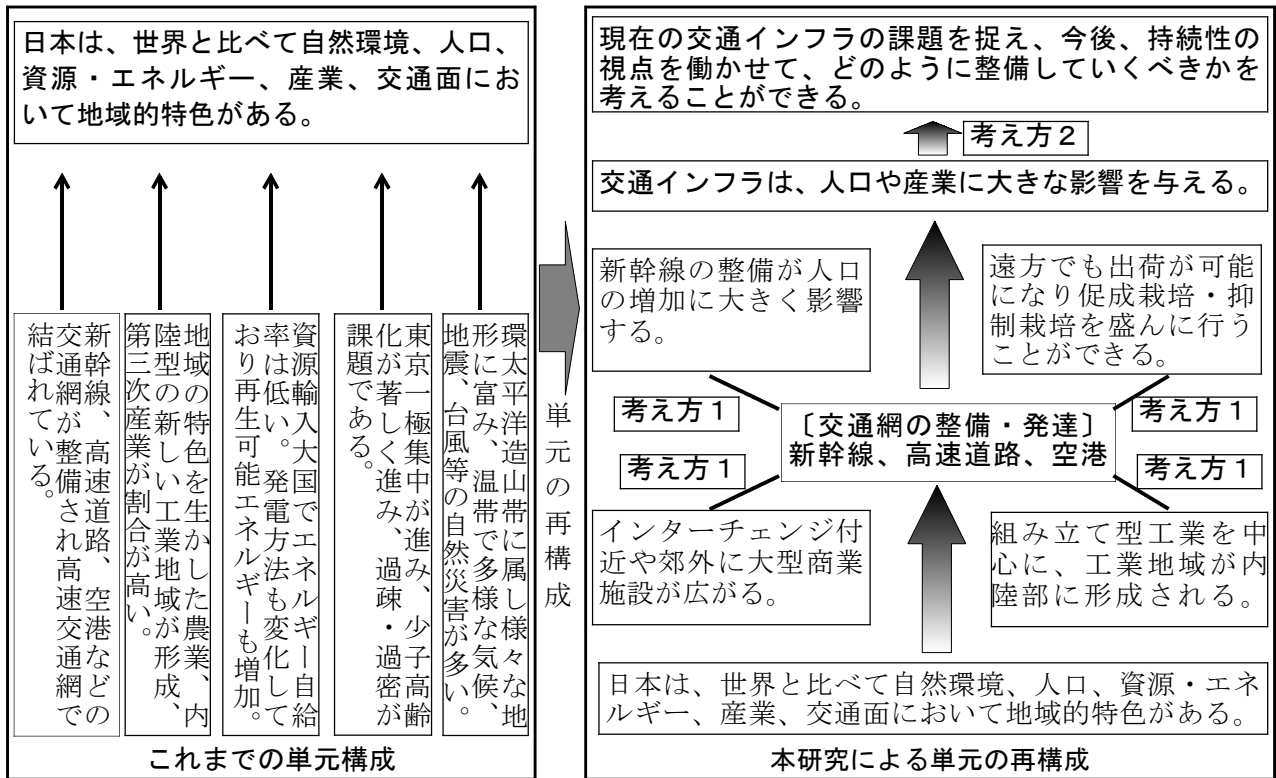


図5 単元の再構成と本単元における「深い学び」の可視化

(2) 視点② 働かせる「見方・考え方」を明確にする。

本単元において働かせる「地理的な見方・考え方」を表4のようにまとめた。

表4 本単元（授業）で働かせる「見方・考え方」

次	内 容	時	見 方		考 え 方				
			位 置 や 分 布	場 所	相 互 依 存 作 用	人 間 と 自 然 環 境 と の	空 間 的 相 互 依 存 作 用	地 域	持 続 性
第1次 自 然 環 境	・日本の地形にはどのような特色があるのだろうか。	1	○					○	
	・日本の気候にはどのような特色があるのだろうか。	1	○					○	
	・日本で発生する自然災害は、地形と気候にどのように関係しているのだろうか。	1	○	○				○	
	・なぜ、東京は、洪水の被害が少なかったのだろうか。 東京と富山を比較して、共通した対策を見つける。	1			○			○	

第2次人口	・なぜ、日本は世界に比べて急速に少子高齢化が進んだのだろうか。 ・持続可能な社会づくりのために、どのような対策が必要なのだろうか。	1				○		
		1						○
第3次 資源・エネルギーと産業	・日本の資源・エネルギーには、どのような特色があるのだろうか。 ・日本の農業・林業・漁業・工業にはどのような特色や課題があるのだろうか。 ・日本の商業・サービス業には、どのような特色があるのだろうか。	1	○	○			○	
		1	○		○		○	
		1	○	○			○	○
第4次	・日本と世界の結びつきはどのようになっているだろうか。 ・交通網が整備されることにより、どのような影響があるのだろうか。	1		○			○	
		1					○	
第5次	・地域が持続可能な社会になるために、交通網の整備で、考えられることは何か。 ・「日本は、世界と比べてどのような地域的特色があるのだろうか」についてまとめる。	1						○

6 単元の指導目標

- 日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。 【学習に主体的に取り組む態度】
- ①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現すること。 【思考・判断・表現】
- 日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。 【思考・判断・表現】
- 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。 【知識・技能】
- 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解すること。 【知識・技能】
- 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。 【知識・技能】
- 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解する。 【知識・技能】
- ①から④までの項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解する。 【知識・技能】

7 単元の評価計画（評価規準、評価方法）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解している。	ア①から④までの項目について、それぞれの地域区分を、地域の共通点や差異、分布などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。	ア日本の地域的特色と地域区分について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。
イ少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解している。	イ日本の地域的特色を、①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して、それらに関連付けて多面的・多角的に考察し、表現している。	
ウ日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解する。		

<p>エ 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況，これを活用した陸上，海上輸送などの物流や人の往来などを基に，国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解する</p> <p>オ ①から④までの項目について，それぞれの地域区分を，地域の共通点や差異，分布などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>カ 日本の地域的特色を，①から④までの項目に基づく地域区分などに着目して，それらを関連付けて多面的・多角的に考察し，表現している。</p> <p>キ ①から④までの項目に基づく地域区分を踏まえ，我が国の国土の特色を大観し理解している。</p>	
評価方法	
<p>○選択肢、正誤法、記述式等の客観テストによる評価</p> <p>○授業中の発言、話し合いに粘り強く取り組んでいるかなどの観察による評価</p> <p>○授業中でのノートやワークシート等の記述内容による評価</p>	

8 単元の学習指導計画 (全 12 時間)

過程	主な発問・学習活動※下線部：学習課題	期待される生徒の反応・獲得させたい知識・ <u>概念</u>	評価の観点		
			知	思	主
<p>【単元を貫く課題】 「日本は、世界と比べてどのような地域的特色があるのだろうか」</p>					
第1次 自然環境	<p>1 <u>なぜ、北海道の冬にマンゴーを栽培し、採算がとれるのか。(学習課題1)</u></p> <p>2 <u>日本の地形にはどのような特色があるのだろうか。(学習課題2)</u></p> <p>3 <u>日本の気候にはどのような特色があるのだろうか。(学習課題3)</u></p> <p>4 <u>日本で発生する自然災害は、地形と気候にどのように関係しているのだろうか。(学習課題4)</u></p> <p>5 <u>なぜ、東京は、洪水の被害が少なかったのだろうか。(学習課題5)</u></p> <p>6 <u>東京の場合と富山の場合を比較して、共通した対策を見つけ、自分の考えを書く。</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> 日本は環太平洋造山帯に属し、火山が多く地熱を利用できるから。 4分の3が山地である。 日本アルプス、フォッサマグナ。 河川は標高が高く距離が短く流れが急である。 温帯だが6つの気候がある。 梅雨、台風があり降水量が多い。 梅雨や台風で洪水、地滑りなど。 環太平洋造山帯に属し、地震、津波、液状化、火砕流など。 江戸時代に放水路や流路変更、現代では水門や遊水池を建設したから。 <u>江戸や明治からの先人の洪水対策が現代でも生かされていること。</u> 	ア		
第2次	7 <u>なぜ、東京は、多くの若者が移動し</u>	<ul style="list-style-type: none"> 地価が高く通勤時間が長い郊外に住 			

人口	<p>ているのに少子化が進むのだろうか。(学習課題 6)</p> <p>8 東京都が出生率最低になる原因を追究する。</p> <p>9 <u>なぜ、日本は世界に比べて急速に少子高齢化したのだろうか。(学習課題 7)</u></p> <p>10 <u>持続可能な社会づくりのために、どのような対策が必要なのだろうか (学習課題 8)。</u></p>	<p>む。地方出身者が多く、祖父母に預けられない、待機児童が多いなど子育ての環境が良くないから。</p> <p>・<u>地方は、若者が三大都市圏等へ移動し、過疎化が進み少子高齢化が進む。特に育児環境が良くない東京に人口が一極集中しており、さらに少子高齢化が進むという二重構造になっているから。</u></p> <p>・地方の大学を充実させたり、地方に産業を分散化させたり、若者が地方に残るようにする。</p>	イ		
第3次 資源・ エネルギーと 産業	<p>11 <u>日本の資源・エネルギーには、どのような特色があるのだろうか。(学習課題 9)</u></p> <p>12 水力、火力、原子力、再生可能エネルギーの長所・短所を追究する。</p> <p>13 <u>日本の農業・林業・漁業・工業にはどのような特色や課題があるのだろうか。(学習課題 10)</u></p> <p>14 <u>日本の商業・サービス業には、どのような特色があるのだろうか。(学習課題 11)</u></p>	<p>・鉱産資源のほとんどを輸入に依存している。しかし、都市鉱山の視点を生かすと資源大国である。</p> <p>・それぞれの長所・短所を生かし補い合ってベストミックスの状態にし、安定したものにする。再生可能エネルギーは、徐々に増やしていく。</p> <p>・農業では、面積あたりの収穫量が多いが、価格が外国産を上回り輸入が増加し、食料自給率が低い。</p> <p>・林業では、低価格の外国産の輸入が増え、就業人口は減り、高齢化。</p> <p>・漁業では、漁獲量が減り輸入が増えている。</p> <p>・世界でも有数の工業国。輸送機械工業や電気機械工業が発展し、臨海部の工業地帯から内陸部に広がった。</p> <p>・加工貿易による貿易摩擦により現地生産を欧米やアジアで行う。</p> <p>・第三次産業の影響力があり、就業者数が多くなった。</p> <p>・郊外の大きな道路沿いに大型ショッピングセンターや専門店を自動車で訪れ利用する人が増加している。</p> <p>・情報通信技術関連産業が急速に拡大している他の産業を上回る。</p>	ウ		
第4次 交通・ 通信 (本時)	<p>15 <u>日本と世界の結びつきはどのようになっているのだろうか。(学習課題 12)</u></p> <p>16 <u>交通網が整備されることにより、どのような影響があるのだろうか。(学習課題 13)</u></p> <p>17 既習事項と交通網の発達を関連付け</p>	<p>・資源の輸入や機械類の輸出には海上輸送が、電子部品や野菜や生花などは、航空輸送が利用されている。人の移動は、主に航空輸送が利用され、<u>輸送手段は使い分けられている。</u></p> <p>・<u>交通インフラの整備が人口分布に大きく影響をもたらす。</u></p> <p>・大都市からはなれた地域でも短時間</p>	エ オ	ア	

	る。	で輸送ができるので促成栽培や抑制栽培を盛んに行えるようになった。 <ul style="list-style-type: none"> ・高速道路のインターチェンジ付近や空港付近に、工業団地が造成されたことで内陸部に輸送機械工業や電気機械工業などの組み立て型工業の新しい工業地域が形成された。 ・高速道路のインターチェンジ付近や郊外に商業施設が造られ、商業地が変化した。 	エ オ	ア	
第5次 まとめ	18 <u>地域の持続可能な社会に向けて、どのように交通網を整備すればよいか。(学習課題 14)</u> 19 単元を貫く課題「日本は、世界と比べてどのような地域的特色があるのだろうか」についてまとめる。	・交通インフラの重要性や影響を基に地域の持続可能な社会づくりについて考える。 ・自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に着目した地域区分により見えてきた日本の特色を説明する。	カ キ	ア イ	ア

9 本時の学習（11 / 12 時間）

(1) 指導目標

- ・「地理的な見方・考え方」を働かせることにより、交通網の整備・発展が、人口の増減、農業の多様化、工業地域の内陸地化、商業地の郊外化など人口・産業に大きな影響を与えていることを理解させる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応 □：学習課題 ・：生徒の意見 発：教師の発問 見：見方【内容】 考：考え方【内容】	指導上の留意点
1 前時までの学習内容を確認する。	・口頭で前時までの学習内容を振り返る。
2 資料①を読み取り、理由を予想する。 発「富山、金沢、福井に注目して気付くことは何ですか。」 ・富山が昔は9位で意外だ。 ・金沢、富山、福井が急落している。 発「前時に学習した内容を関連付けて、なぜそのようになったか予想してみよう」 ・交通網の整備が関係しているのではないか。	・資料①を配付する。 ・上位4位にも注目させ、現在と同じ状況であることにも気付かせる。 ・既習事項を想起させる補助発問を行い、予想しやすくする。
《探究1》 3 資料①を見て、1878-1985年の人口ランキング20位以内の推移に注目し、グループで傾向を捉える。【読取り(情報収集)】 発「20以内にとどまっている都市がある都道府県は青色で、20位以下になった都市がある都道府県は赤色で、白地図に印をつけてみよう。」 発「白地図の印からどのような傾向がありますか。」 見：【位置や分布】 ・現在の大都市は、昔も順位が高い。 ・太平洋側に青色が多い。 ・日本海側に赤色が多く、下落している。	・課題意識が高まるよう順位が上下した都市の場所を空間的に認識しやすくするよう、日本白地図に印をつけて、日本全体で捉えられるようにする。 順位を落とした都市の所→赤 順位を上げた・維持の所→青
4 資料②を配付し、4人班で3で分かった傾向と複数の資料の読み取りを関連させて整理し、ノートにまとめる。 【解釈・説明(整理分析)】 発「白地図から分かった傾向と資料から整理すると、どのよ	・端末に関連資料②を配付する ・北陸地方と上位の都市に注目させる。 ・なぜ日本海側である新潟は、順

うなことが言えるだろうか。」

考1：【空間的相互依存作用】

- ・鉄道の開通や新幹線の効果は大きく人口に大きく影響する。(説明的知識)
- ・鉄道や新幹線などが整備されると人口が増加するなど、交通網の整備による影響は大きい。(説明的知識)
- ・新幹線などの整備を早くすることは発展において大事である。(説明的知識)

5 課題を設定する。【課題設定】

発「今日は、交通網による影響を明らかにしていきましょう。」

交通網の整備により、どのような影響があるのだろうか。

《探究2》

6 探究1で得た交通網の影響の説明的知識を活用して、人口以外の他の社会的事象に関連付けた内容を、4人班でホワイトボードにまとめる。【あてはめ(整理分析)】

発「学習してきた内容で、新幹線以外の交通網の影響と関連づけられることはないだろうか。」

考1：【空間的相互依存作用】

<ul style="list-style-type: none"> ・大都市からはなれた地域でも短時間で輸送ができるので促成栽培や抑制栽培を盛んに行えるようになったこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路のインターチェンジ付近や空港付近に、工業団地が造成されたことで内陸部に輸送機械工業や電気機械工業などの組み立て型工業の新しい工業地域が形成されたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高速道路のインターチェンジ付近や大きな道路付近にショッピングモールやアウトレットモールが造られ、郊外で商業が盛んになったこと。
---	--	--

7 交通網が産業の発展に大きく影響することを歴史的事象でも理解することで、概念を構造化させる。

発「歴史で交通網が与えた影響は、なかっただろうか。」

- ・西廻り航路の発達で、大阪や港が栄えた。
- ・五街道の整備で、街道沿いの宿場町などが栄えた。

8 学習課題について、個人で考えてノートにまとめ、発表する。【概念化(まとめ)】

発「交通インフラの整備には、どのような影響があるのだろうか。」

- ・交通インフラは、人や物を運ぶだけでなく、人口や産業に大きな影響を与える。
- ・交通インフラは、日本の地域的特色を形成する中心的なものである。

9 次時の予告をする。

発問「現在の交通インフラの課題を捉え、地域の持続可能な社会に向けて、どのように交通網を整備すればよいかを考えます。」

考2：【持続性】

【論述】

位を落としていないのかを補助発問をすることで、新幹線の影響を考えやすくする。

- ・教科書やノートを振り返らせ、既習事項を想起させる。
- ・第一次産業(農業面)、第二次産業(工業面)、第3次産業(商業・観光業)では、どうだったかという補助発問をすることで関連付けやすくする。

- ・歴史的分野の学習を想起させる。
- ・西廻り航路や五街道が想起されない場合は、江戸時代ではどうか、という補助発問をする。
- ・教科書の具体的頁を確認し、把握する。
- ・机間指導して、意図的に指名する。

【資料】

- ①日本の都市人口の推移：吉川 洋『人口と日本経済』中公新書、2016年8月25日、p70。
- ②鉄道の発達：『中学社会 歴史的分野』日本文教出版、2015年、p173。

日本の高速交通網の移り変わり：『中学社会 地理 地域に学ぶ』教育出版、2015年、p171。

(3) 学習評価の視点

- ・「地理的な見方・考え方」を働かせることにより、交通網の整備・発展が、人口の増減に影響したり、農業を盛んにしたり、工業地域を内陸に広げたりすることに大きな影響を与えることを理解することができたか。 【社会的事象への思考・判断・表現】(発言やノート等)

10 授業観察の視点

- ・見方や考え方を働かせる「学習課題」や「問い」であったか。
- ・生徒の深い学びは実現していたか。

〔主な参考文献〕

- ・一般財団法人 運輸総合研究所『北海道、東北、北陸、九州新幹線の開業効果』、2018年3月。
- ・岩田一彦・米田 豊『「言語力」をつける社会科授業モデル 中学校編』明治図書、2009年9月、pp.26-36。
- ・岡崎誠司『社会科授業4タイプから仮説吟味学習へー「主体的・対話的で深い学び」の実現ー』風間書房、2018年11月6日、pp.53-74。
- ・岡崎誠司『見方考え方を成長させる社会科授業の創造』風間書房、2013年4月15日、pp.14-16。
- ・小原友行「社会的な見方・考え方を育成する社会科授業論の革新」社会系教科教育学会『社会系教科教育学研究』第10号、1998年、pp.5-12。
- ・国立教育政策研究所『学習指導要領データベースインデックス』最終閲覧2019年11月。
- ・澤井陽介『見方・考え方 社会科編』東洋館出版、2017年10月、pp.137-171。
- ・澤井陽介『教師の学び方』東洋館出版、2019年3月、pp.84-90。
- ・『社会科教育8月号・700号』明治図書、2017年8月、pp.8-11。
- ・田村 学『深い学び』東洋館出版、2018年4月、pp.23-25、pp.34-37。
- ・都道府県データランキング web:<https://uub.jp/pdr/ss/hotel.html> (最終閲覧2020年11月)
- ・富山大学人間発達科学部附属中学校『主体性の高まりをめざしてー課題学習で学校をつくるー』富山大学出版会、2009年6月。
- ・藤井 聡・市森友明『北陸から問う、土木のちから。インフラなくして国家なし』北日本新聞社、2019年12月、pp.49-52。
- ・吉川 洋『人口と日本経済』中公新書、2016年8月25日、pp.69-72。
- ・吉田 剛「中学校学習指導要領社会における地理的見方・考え方の潮流」『宮城教育大学紀要 第43巻』、2008年、pp.43-59。
- ・吉田 剛「二つの学習の側面に機能する地理的概念の体系」『社会科教育 No.700』、2017年8月1日、pp.8-11。